

「堂々川;人も自然も生きている」

2021(令和3)年12月22日 堂々川ホタル同好会情報紙 2021年度第7号(創刊203号)

1. 12月12日の定例会は18人の参加で彼岸花植栽場の草取り、猪が掘りあげた場所の整備、ごみ拾い、モミジの植栽をし、定例会以外の平日も川原の草刈りをしました。
2. イノシシが毎晩のように出沒し、1番砂留周辺、5番川原の山寄り、堂々公園内周辺を掘り起こし、彼岸花の球根を日干しにしてくれています。
3. 微風でも桜の枯れ枝が落下して危険なので、桜の枯れ枝を伐採しました。
4. モミジは6人の希望者があり、イロハモミジを6本植栽し、来月看板を掛けます。
5. 11月から12月にかけて、やり残しの各砂留の川原の草刈りを役員が頑張りました。ヘビが出る2番砂留の下流がすっきりし、岩盤が見えます。残念なことは毎年確認されたカヤネズミの巣が無かった事。今3、4、5番各河原は今年で1番綺麗です。
6. 草刈りや砂留整備は安全面で注意する必要がある為ヘルメットや保護メガネを必要としています。JAさんや食品容器環境美化協会さんからの支援で対応しています
7. 目で見ると事例



12日の定例会 ひと休み



モミジ植栽



5番河原草刈り



猪が掘った跡の整備



2番河原の草刈り



枯れた桜の枝伐採



3番河原の草刈り完了



1番砂留東広場整備



1番砂留後方のモミジ

8. 次回定例会 集合時間場所 2月 20日(日) 8時30分~11時00分

作業内容 ごみ拾い・イノシシの耕した跡の整備・鳶が迫谷の草刈り

定例会はどなたでも参加できます。参加者は保険に入る為名簿にお名前を記入して!

9. 発行責任者 堂々川ホタル同好会 会長 土肥 徳之 携帯 090-2865-3486

小説〔 続彼岸花物語 〕

2010年、堂々川地元の小学校の校長・教頭先生と運命的な出会いをした。教育への情熱が溢れんばかりのお二人であったと記憶している。堂々川へ遠足に行く話が出て彼岸花を植えることになった。今は喧嘩別れをした元会長が一人で球根を植えられた姿が浮かんだが、最近猪が掘りあげ耕している。この斜面の彼岸花が咲かなくなったのは残念である。地元小の若い女性の先生が球根を植える穴掘りをされたのも今では語り草になっている。

ある年、平野地区の方から2000球の球根を貰い、翌日植えるために斜面に球根を置いて帰った。翌朝川へ行くと、球根の半分以上が無くなっていた。多分不法投棄と思ってお持ち帰りになったのだろうか？と善意に解釈してみたが悔しかった。買えば1球30円になり、お金の無いボランティアにとっては大変大きな金額である。このことを教訓に地元で赤花を調達する際には大中小と区別し、30円、10円、1円としてお金を支払うことにし、色花（白、黄、橙、紫、桃色）は鹿児島や熊本、大阪・京都の商社や園芸店から調達した。この頃から花色30色、咲く数30万本越を目標数値にしている。花色は1球500円を超える品種もある。泥棒まがいのことをされたり、繁殖力が弱かったりして消えてしまったものもあるが、会員の皆さんの努力で綺麗になった。堂々川が好きだと毎回定例会に15人以上参加してもらえらる。作業参加の会員からは会費を貰わない規約にしている。それなら資金はどうして集めるのと聞かれる。基本的には環境をテーマに活動する団体から助成金を出してくださる財団を探しそこへ申請書を毎年提出して審査を経て合格して初めて10～50万円を貰っている。

脱線したが、堂々川のホタルの会は小学生・保育園児そして時々中高大学生が応援してくれている。毎年遠足に来てくれる地元の小学校には「堂々川を極める」等のテーマで発表会をされている。美人ですごい熱意がある先生が発案して始まった、と聞いている。今でも会いたい気はするが来年80のボランティア・・・、年はとっても砂留文化「ホタルと花と砂留と」を語らせたなら元気一杯で口が滑らかになる。話を元に戻すと小学生とボランティアが作る堂々川のみは1昨年あたりから福山の観光地になってきた。

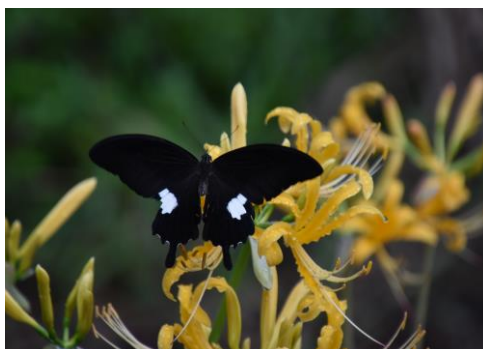
春は桜とツツジ、初夏はホタルの舞、夏は新緑と堂々公園の水浴び、初秋が彼岸花、晩秋がモミジなどの紅葉、冬は砂留が雪に覆われる冬化粧こんな姿を見学に年間で1万人を超える来訪者がある。時々花を摘んで持ち帰る人がいるが、花愛好家とは言わない。後に続いて観賞される人の事も考えて欲しい、と声を大にしてお願いしたい。

自慢話を一つ

堂々川ホタル同好会は大臣表彰を2007年、2011年、2014年、2015年の4回、そして広島県景観会議最優秀賞を2009年、最近では都市緑化機構の会長賞及び日本水環境文化賞を受賞しています。皆様の入会されるのをお待ちしております。

終

私たちは「ホタルと花と砂留と」の活動を通して堂々川を守るボランティア団体です。



蝶よ・花よと眺めるがとりさる者は追わず、本当に猿迄出てくるとは！困った。困った！